

知床五湖冬季利用促進事業部会
事業説明資料

1. 部会の設置

部会構成メンバー

知床自然保護協会、知床ガイド協議会、(公財)知床財団、(公財)自然公園財団、オホーツク総合振興局、北海道森林局、環境省釧路自然環境事務所

有識者 中川元

事務局 知床斜里町観光協会、斜里町

2. 第1回部会開催

- 1) 開催日 2月15日
- 2) 議事進行 斜里町商工観光課(事務局)
- 3) 趣旨説明 斜里町観光協会(事務局)
- 4) 意見集約

- 冬季間通行止めの道路使用の場合は、国有林の管理業務、環境省のシャープシューティング等の公共事業に対して許可をしている。エコツアーだから利用は認められるものではなく、十分な公共性を有していることが条件となる。
- 一般車両の乗り入れを認めた場合、道路管理者として通行止めをしている意味そのものが問われる他、事故があればその責任も問われる。
- 一昨年まではバックカントリーとして利用者の責任において実施していたが、車両の乗り入れとなれば、バックカントリーとしてのイメージではなくなるのではないか。
- 車両で行くことにより、利用が限定されたエコツアーとしての質が落ちるのではないか。
- 五湖を起点にルートを増やす協議も必要。広く捉えた方が公共性につながるのではないか。
- 受益者負担で除雪となるとお金の出し入れがあるので、公共性の観点から見て難しい。
- カムイワッカ方面では落石の可能性があるから通行止めにして、シャトルバスを運行し利用している実績がある。
- 自分たちで除雪をして通行するなら一般の人と登録をしていないガイドは排除することにならないか。
- 今の利用を比較して、車両の乗り入れをすることが本当に良質な自然体験をできるのか、将来の利用形を考える必要性がある。

○希少猛禽類は繁殖期なので配慮が必要であるが、利用範囲が繁殖地と重ならなければ問題はない。

○高架木道の利用に関しては、どのような仕組みで利用するかによって整理が必要となる。

車両の乗り入れはハードルが高く、可能性がないというわけではないが様々な整理が必要との意見集約となった。具体的な将来像を描き知床五湖の利用のあり方も含め検討を継続することを確認した。

オホーツク振興局は建設管理部が部会メンバーとして出席しているが、今後は利用の観点から産業振興部商工労働観光課観光室も加えて、継続協議することとなった。